

○伊郷真紀 小林茂雄

(共立女大)

〈目的〉現代社会において、男性の通勤時の服装はスーツにワイシャツのスタイルが圧倒的に多い。このワイシャツに焦点をあててみた場合、白のワイシャツを用いる割合は年齢、業種、地域などの要因により異なることが考えられる。白のワイシャツの着用がこれらの要因により異なるとすれば、その内面に存在するものは何なのであろうか。このことを検討する基礎資料を得るために、これらの要因による通勤時スタイルとワイシャツの着用の関連を実態調査により明らかにする。

〈方法〉地域による違いは、大手企業のオフィス街の典型的なビジネス地区と中小企業や工場などの多い地区において、また、業種による違いは異なる企業の前において、通勤時の着装状態を観察法により定点観測した。なお、年齢の要因については観察により推定しやすい20歳代・30歳代前半と50歳代・60歳代を調査対象とした。服装はスーツ、ジャケット、スラックス、ワイシャツなどの組合せにより類型化した。この場合、ワイシャツについては、白、ストライプ、色に分けて調査した。

〈結果〉スーツスタイルはビジネス地区（丸の内周辺）では特に顕著なスタイルで、年代に関係なく90%以上を占めるが、ワイシャツに注目すると、50・60歳代は明らかに白のワイシャツを着用している者が多い。20・30歳代でも白のワイシャツが最も多いが、白以外のワイシャツを着用している者は50・60歳代に比較して多い。地域や業種によっても服装スタイルに違いがみられるが、白のワイシャツの着用については、年齢が最も大きな要因となっている。